

政策目標1

番号	項目	意見内容	会場	事務局回答(当日)
1	政策目標1 その他	30代40代が参加しやすい、特に子育て世代がこのまちに住み続けようと思えるような場づくりを検討してください。保育付き、手話通訳、ノートテイク付など参加しづらい人の配慮もいただきたい。	香川公民館	(アンケート)
2	政策目標1	小学校の児童数の偏在化が進んでいる状況である。地域の子も達が等しく皆、有意義に学校生活を送れるように、全体的に学区を1回見直す必要があるのではないかと。小学校のことをきちんとすることは、通学に対する安全、防災に対すること、教育に対すること、そのような点がすべてに関わってくることだと思う。	鶴嶺公民館	多方面からそのような話を聞くので承知している。学校規模適正化の基本方針を教育委員会が考え直している最中であるが、学区の再編については今は考えていないと思われる。
3	政策目標1	3～6才までの子の、とくに雨の日すごせる場所がないです。支援センターは狭い	鶴嶺公民館	(アンケート)
4	政策目標1 政策目標 -行政経営	学校の建て替え、統廃合の計画はどうなっているのか。公共ならば30年か40年で建て替えの切り替えになるが、その期限が県内でも増えている。本市は今後そのような計画はあるのか。高齢化社会に伴い、公共の施設を利用できるような方法はないか。縮小してくると利用価値のある場所が少なくなってくるが、計画の策定の中でどのように入っていくのか。	松林公民館	教育委員会では学校規模適正化方針の見直し作業をやっており、小さくなった学校はどうするのかという方針を作っている最中である。合併や統合など、いろいろな手法を全国的にやっている。 子ども達の数の推移を見ながら、学区と地域の関係などいろいろなことを考慮しつつ、手法を選んでいくことになろうかと考えている。
5	政策目標1	市内の小中学校全校に特別支援学級があるわけではない中、子ども達の児童数が減っていくにもかかわらず、支援を要する子ども達は増えている。子どもが減って施設や教室は空いており、実際に空きクラスはたくさんある。将来的に特別支援学級を全校に配置し対応を充実させる予定があるのか。そうでなければ、隣接のところにに行けるような支援体制を考えているのかどうか教えてほしい。	松林公民館	半分ぐらいの学校にしか特別支援学級はない状況である。去年、議会に陳情が出てそれが採択され、できるだけ早く全校に支援級をついていこうという方針で動いている。ただ、3教室1セットでやっているとき教室が出ないとなかなかつれないため、1教室でも2教室でもいいという方針に転換している。教育委員会としては、できるだけ全校に支援級を設置して、支援級に通うか通常級に通うのか、もしくは自分の学区の支援級に通うのか、それともそうではない学区に通うのかということを保護者の方が幅広く選択していただけるような状況をつくりたいということで、急いで進めているところである。
6	政策目標1 政策目標2 政策目標全般	財政面でこれからは伸びが期待できない。ロボット特区などの特区の中で企業を誘致して法人税を上げるということを考え、そういう質問をしようと思っていたが、今までの話を聞くと非常に暗い。もう少し明るい財政を、収入を上げるために今はこうしているとか、待機児童を解消してもっと働いてもらうとか、そういう明るい話をぜひ聞かせしてほしい。	松林公民館	人口が減っていく、ただ高齢者の割合は増えていくという中で、1人の高齢者を支える人数も減っていくというイメージで説明した。今年、茅ヶ崎市は補正予算を取って国の地方創生の交付金などをもいただき、その交付金を利用して子育て世代の転入促進プログラムを展開して子育て世代の引越先として茅ヶ崎市を選んでもらうようになってきた。先ほど目指すプロモーションも始めている。 また、昨日のまちづくり懇談会では、観光のまちに特化していくべきではないかという意見が幾つか出ていた。そのようなことに対して皆さんからご意見があればいただきたいと思う。
7	政策目標1	茅ヶ崎の将来の為に高齢者よりも、子ども達に、より多くの予算配分をお願いします。	松林公民館	(アンケート)
8	政策目標1	・子育てしやすい環境・支援とは何か具体的な施策に知恵を出し合う。 学校と地域の連携をより具体的にしていくことも大切と思う。	松林公民館	(アンケート)
9	政策目標1 政策目標7	生産年齢人口が減ると市税が減るので、生産年齢人口を増やす必要があるが、それには、子育て世代にとって魅力のあるまちをつくるのが重要だと考える。身近なところに子どもの遊び場空間があることが重要ではないか。川崎では、夢パークを体験した子どもが、大人になって、夢パークの近くに移り住んできている。例えば、茅ヶ崎市のゴルフ場跡地に冒険遊び場を作り、何をやってもよい遊び場をつくることで、そこで遊んだ子どもたちが、30年後に戻ってくる可能性もあるのでは。	市役所(9月21日)	子育て世代に引越してきてもらおうというPRを20～40代の夫婦をターゲットに行っている。子どもが増えると経費も増えるのではという意見もあるが、将来のことを考えると、やはり子どもたちを増やしていくことが重要。茅ヶ崎市はイメージがよく、子どもが小さいときに引越してくる子育て世帯がいるが、子どもが小学校に上がるときに、住み続けるか悩むことがあるとの意見もあり、住み続けてもらうための対策を考えてい必要がある。
10	政策目標1	要望になってしまうのですが、もっと地域と学校などの連携を強めてほしいと思います。例えば近所に住んでいる高齢者と小中学校で、交流できる会をつくったり、学校に招いて、お話をきくなど、地域に対してもっと興味をもってもらうことが必要だと思います。小学生の朝登校する際に近くの高齢者に、はた当番をしてもらい、見守ってもらうことで、安全性も高まり、共働きの家庭でも安心して仕事ができるなど、メリットがあると思います。	市役所(9月21日)	(アンケート)
11	政策目標1	1年前に子育て世代として、引越してきました。子育ての場を選ぶ際に気になる項目はいろいろありますが、実際に生活してみて、今後充実させていただいたら、以降も子育て世代が増えると思います。 ・中学校の給食 ・子どもの遊び場(公園、施設) ・長期休みの際の子ども預け先(場所を増やす、送迎など) 今日はありがとうございました。	市役所(9月21日)	(アンケート)
12	政策目標1	「子どもがいきいきと輝き、未来を拓くひとが育つまち」について、子どもの保育園が少ないことや、学校の老朽化への対応が建て替えから耐震化に変わり、危険な学校に通い続けている子どもたちが多く出ているなどの状況がある。以前、公認でない保育園や幼稚園に対して補助金は出せないという話を陳情した団体に回答していたが、これは財政運営の問題と政策目標と関連していないのではないかと考えている。骨子にはきれいな内容が書かれているが、実現は困難だと考えている。	体験学習センター	学校の建て替えについて、直面している自治体は多い。文科省も方針を変更し、長寿命化により耐用年数を60年から80年に延ばした。現在、様々な学校の劣化の状況を診断しているところであり、それらを踏まえ、どういった手法で取り組んでいくかを検討している。

番号	項目	意見内容	会場	事務局回答(当日)
13	政策目標 1	「子どもがいいきと輝き、未来を拓くひとが育つまち」政策目標が重要だと考えている。茅ヶ崎市の教育環境の充実としては、学校の建て替えの時期に来ていると思うが、具体的なスケジュールが出てこないのは決まっていないということか。学校の建て替えを全て完了するには、30年はかかる。もっと、計画的にやっていかないと、危険な学校施設で授業を受けざるをえない児童・生徒が出てしまう。子育て世帯として住みたいまちの要素に、教育環境の充実が重要である。	小和田公民館	人口が急増した高度経済成長期の時期にたくさん学校の建て替えがきた中で、耐用年数の60年を超えそうな学校もあり、対策について決めていかなくてはならない中で、コンクリートの劣化状況を確認することとなっている。まずは状況を見て、どういった手法で取り組めるのかを検討していきたい。来年度策定する実施計画の中で、最初の3年間の取組が決まるが、何らかの手を打つこととなると思う。ただし、財政状況も踏まえ、調整は必要だと考えている。
14	政策目標 1 政策目標 6	私は建設関係の仕事をしているが、小学校の建て替えをするのは当たり前だと思っている。コンクリート劣化のような、どこかからもらった話で議論を進めているというのは、職員の勉強が足りないのではないのか。私は、避難要支援者行動制度を勉強しているが、もっと行政も勉強すべきだと思う。計画書は立派なものだと思うが、せっかくいろいろ情報があって、市民も勉強していかなくてはならない中で、計画書の中に何も入れられないのか。行政はもっと勉強して実力主義で進めていくべきだと考える。お金がないからと言って事が済むと思ってもらっては困る。	小和田公民館	もっと勉強してまいります。
15	政策目標 1	・学校等、公共施設の老朽化がある一方で、これから学校に入り学ぶ児童・生徒は減少傾向にあるため、施設を新しくしても、利用する児童・生徒がいなくなる、少なくなる可能性があると思うのですが、その点については、学校が閉校になった際には、他の目的の施設へ転用するなどを見込んだ施設にする予定であるのでしょうか？その点は少し気になりました。 ・また、もしも新しく建てかえるのであれば、耐震性はもちろんですが、子どもたちが日頃から過ごしやすいような環境(木造校舎は難しいでしょうか・・・?)配慮して頂けるのであれば有難いです。 ・茅ヶ崎市に住んで子育てをしている者として、つい最近、妊娠中の通院に際しての補助費が増額になったことは、大変有難く心強く思っています。今回のまちづくり懇談会に参加するにあたっての託児利用や、保育園の無償化なども有難く、支えていただいております。ありがとうございます。 ・茅ヶ崎市立中学校の給食実施について、もしも始まるのであれば、働く親としては、こんなに有難いことはありません。ただ、公債との兼ねあいも考えると、やってほしいと強く言えないとも思っています・・・。(素人考えであり、大した意見も出せず申し訳なく思います。茅ヶ崎市をよりよくするための大事な会であると、参加しお話をきかせていただき感銘しましたので、市の考えを知ることができる貴重な機会を下され、ありがとうございます。)	市役所(10月3日)	(アンケート)
16	政策目標 1	市長が中学校給食を公約に掲げたことは素晴らしい。ただ、茅ヶ崎市は小児医療費でも何でも、他市と比べて何となく子育てが大変な場所という印象を持たれているように思う。今後内容を詰めていく際には、他市の後追いではなく、他市よりも茅ヶ崎市が進んでいると思われるような取組を進めてほしい。中学校給食でも、今の流れであるセンター式を安易に採用するのではなく、各校で丁寧にする、など先進的な形を作ってほしい。	ハマミーナまなびプラザ	市長が変わって中学校給食も公約となり、他市にも追いついてきたかなという思いはある。市としては、学童保育の待機児童が増加しており、そこにも力を入れたいと考えている。中学校給食の手法については、いま教育委員会で手法を検討している。年度内には検討結果をお示しできる見込みである。